

# カムリワシ 英:Crested Serpent Eagle 学: *Spilornis cheela*

## 1. 分類と形態

分類: タカ目 タカ科

全長: ♂51.3cm(49.9-53.0) ♀52.2cm(50.5-53.7)  
 自然翼長: ♂35.3cm(32.7-36.5) ♀35.7cm(34.1-37.5)  
 尾長: ♂23.0cm(21.8-24.9) ♀23.9cm(21.1-25.3)  
 露出嘴峰長: ♂28.9mm(27.4-30.0) ♀29.0mm(27.9-30.2)  
 ふ蹠長: ♂79.4mm(75.0-82.5) ♀78.7mm(74.4-82.8)  
 体重: ♂731g(670-780) ♀756g(700-840)

※佐野による石垣島の収容個体(衰弱や損傷の激しい個体は除く)の計測値。成鳥オス7個体,メス5個体。

### 羽色:

成鳥の背面は黒褐色,腹面は茶褐色から灰褐色に白い斑が無数にある。頭部は羽の重なり具合から黒色が目立ち,後頭には和名や英名の由来ともなっている冠羽がある。しかし緊張時などで立てない限りあまり目立たない。虹彩は黄色(まれに性や年齢に関わらず暗褐色の個体がいる)で,目の周りの裸出した皮膚と足は黄色,嘴は青味のある灰色。風切羽と尾羽は太い黒帯が2本ある。幼鳥の背面は白色に暗褐色や黒色の帯が入り,遠目からは白黒のまだらに見える。腹面は白いためよく目立つ。目の後の黒い模様は,全く無い個体から複雑な模様まで個体差がある。虹彩は薄い青色から黄緑色。風切羽と尾羽には黒帯があるが,成鳥より細くて帯数が多い。



写真1. カムリワシの成鳥(上)と幼鳥(下)。

### 鳴き声:

一般的なのは,「ク・ク・ク・フィフィフィフィー」というよく響くなわばりの鳴き声で,1月下旬から5月頃が頻発的に多い。「フィー」と一声鋭く鳴く警戒の声。「ビー・ビー…」または「ヒー・ヒー…」とかすれた声で鳴き続ける声。「キューイ・キューイ…」というメスのみが交尾前や餌を受け取る時に鳴く甘え声などがある(佐野 2003b)。その他に餌を渡す相手を呼ぶ「ホーヨ・ホーヨ」やヒナの鳴き声などを含めると6種類以上が確認されている。

## 2. 分布と生息環境

分布:

インド,スリランカから中国南部,台湾とマレー半島,スマトラ,ジャワ,カリマンタン,スラウェシ,フィリピン等,南アジア,東南アジアに広く分布する(Dickinson 2003ほか)。日本産の固有亜種 *S. c. perplexus* は沖縄県の石垣島と西表島の2島で周年生息し,繁殖が確認されている。近年,別種 *S. perplexus* とする見解も提示されている(Ferguson-Lee & Christie 2001)。

### 生息環境:

成鳥は,まとまった森林地帯と河川やマングローブ林などの湿地が隣接した環境を好み,主に森林部で営巣し,湿地部で餌を捕らえる。開けた場所でも餌を捕らえ,水田や牧草地,サトウキビ畑なども利用している。まだ生息場所が定着していない若い個体は,小規模な二次林や社寺林,広い畑や水田地帯,海岸林なども利用する。

## 3. 生活史

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月  
 繁殖システム: 交尾・造巣期 抱卵期 巢内育雛期 巢外育雛期  
 ヒナの独立時期は不明

### 繁殖システム:

一夫一妻で繁殖する。造巣のための枝運搬は1月後半から確認できるが,4月初旬の産卵までの間,日を置いて緩やかに行われる。その間交尾を何度も行う。抱卵や抱雛は主にメスが,餌運搬はオスが行う。6月下旬にはメスも巣から離れ餌を運び,7月中旬から8月にはヒナが巣立つ。巣立ち後,ヒナがいつ独立するのかわかっている。

### 巣:

営巣場所はリュウキュウマツ林や常緑広葉樹林の湿潤な谷の傾斜部で,営巣木はイタジイ,リュウキュウマツ,ガジュマルなどが使われる。放射状に出ている枝の所や横枝に繁茂したツル植物の塊の上に皿型の巣を架ける。巣材はリュウキュウマツ,ガジュマル,シマトネリコが確認されている。巣の大きさは,リュウキュウマツ林では66×51cmと報告されている(宮崎1981,原戸1987,佐野2003a)。

### 卵:

一腹卵数は1個という記録と2個という記録がある。3年間連続して営巣した巣では,孵化後間もないヒナが毎年1羽だったことから,通常1個だと思われる。サイズはニワトリの卵くらい,色は生成色の地に赤褐色の斑がある(宮崎1981,原戸1987,佐野2003a)。

### 抱卵・育雛期間・巣立ち率:

抱卵期間は推定で30~45日前後,孵化から巣付近を枝移りしだす期間は60~70日と幅がある(吉見1991,佐野2003a)。



写真2. 巢内のヒナ。

## 4. 食性と採食行動

両生類,爬虫類,小型哺乳類,鳥類,魚類,甲殻類,昆虫類,ムカデ類,サソリモドキ類,ミミズ類など多様な動物を食べる。有毒なサキシマハブや,耳腺から毒液を出す外来種のオオヒキガエルを食べている姿もしばしば目撃される。臭いの強いジャコウネズミやタイワンサソリモドキを捕獲した観察例もある。佐野(2003a)では,巣に運搬した餌動物の割合はカエル類27%,カニ類13%,トカゲ類11%,ヘビ類6%...の順になっている。採食は木や電柱などに止まり,獲物が動くとその場に舞い降りる待ち伏せ方法が主とされる。経験のある個体は,牧草地などの草刈りや畦焼きで追われる小動物,道路上の轢死体や側溝に陥る小動物など,人為による影響も利用して餌を得ている。

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 比較的警戒心が弱く, 観察が容易

営巣の目撃例や記録がほとんどなく, 林縁から少しでも森林内に入ると視界が遮られ観察しにくいカンムリワシだが, 電柱や林縁部の木などにとまっている時は, 他のワシタカ類より警戒心が弱く, 接近が可能となる. 観察が比較的容易なので, 羽衣の状態, 性や年齢, 標識の有無などを確認できる利点がある. または無標識でも顔などの特徴から個体識別を試みることもでき, 特に定着した成鳥に関しては, 行動圏の把握にもつながるものと思われる. 最近では観光などで石垣島や西表島に訪れ, 道路沿いの電柱などに止まっているカンムリワシを撮影し, 個人のブログ等にアップする人も増えている. これらの画像の中には標識や顔の特徴などが映っているなど, 貴重な情報が含まれている場合がある. カンムリワシ・リサーチ (<http://kanmuriwasi.web.fc2.com/>) ではこのことに注目し, 標識された個体の情報収集と, その年毎の幼鳥の顔写真を募集し, その模様から個体識別をすることによって, 生息数を把握するモニタリング調査を試みている(佐野2010).

● 石垣・西表以外での確認事例

カンムリワシは石垣島と西表島には周年生息し, 繁殖しているが, 近隣の島々でも確認事例がある. 1980年代に多良間島の海上で2例(久貝・山本1981, 久貝1998), 1970年後半から80年前半にかけて与那国島で3例(小山ら1980, 環境庁1982)の記録が残っている. しかし与那国島は台湾に近いことから台湾産の亜種の可能性もある. 最近の記録では2004年から2005年の冬季に竹富島の海岸林で幼鳥が1例(菊地・佐野2007), 1995年から2007年まで小浜島の海岸林近くで7例(髙原2004, 環境省2008)がある. また2010年に小浜島で保護し, 標識装着後に放鳥した若鳥(成鳥羽の中に一部幼鳥羽がある個体)が, 2011年に西表島で確認(環境省西表野生生物保護センター 私信)されている. 2000年以前の文献は, 年齢の記載がないものが多く不明であるが, 最近の周辺離島の記録は若い個体が観察されている. 石垣島と西表島の繁殖環境は限られており, 若い個体の滞留の場として周辺離島の環境が注目できる. 日本産の個体群の移動・分散の把握と生息地の保全のためにこれらの記録の蓄積は重要である.

● 増加傾向にある交通事故

カンムリワシは年間平均して石垣島で9.5羽, 西表島で5.3羽が衰弱や怪我または死亡により保護・収容されている. その要因の54%が交通事故となっている(2000年~2011年 カンムリワシ・



写真3. 路上で採食するカンムリワシ. 車の接近直前で飛び立つため, 運転者の発見が遅れると接触する.

リサーチまとめ). 近年, 道路整備や交通量の増加に伴い, 側溝に落ち込んだり, 轢かれたりする小動物も目立っており. これらを食物にするカンムリワシにも二次的な被害が及んでいる(写真3; 図1). カンムリワシ・リサーチでは, 行政や動物病院などと連携し, これらの個体のリハビリや放鳥, 野外復帰や復帰後の情報収集, さらに観察会やチラシ配布などで交通事故防止を呼びかけている.

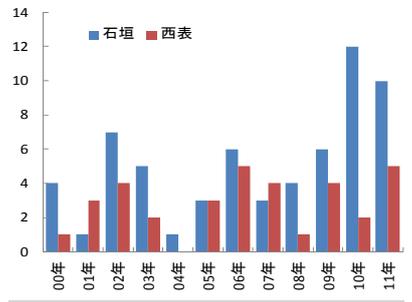


図. 交通事故件数 (カンムリワシ・リサーチまとめ)

6. 引用・参考文献

Dickinson, E.C. (ed.) 2003. The Howard & Moore Complete Checklist of the Birds of the World. 3rd Edition. Princeton University Press, Princeton, New Jersey.

Ferguson-Lees, J. & Christie, D.A. 2001. Raptors of the World. Houghton Mifflin, Boston.

原野鉄二郎. 1987. 西表島におけるカンムリワシの食性と巣立ち雛の行動. 沖縄島嶼研究 5: 49-58.

環境省 那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度国立公園民間活用特定自然環境保全活動事業(カンムリワシ生息状況等調査業務)報告書. pp56-60.

環境庁. 1982. カンムリワシ 八重山群島における生息状況. 昭和56年度特殊鳥類調査. pp.53-75. 環境庁, 東京.

菊地正太郎・佐野清貴. 2007. 竹富島におけるカンムリワシの観察記録. Bird Research 3: s7-s10.

小山嘉一郎・古賀光利・藤門恵蔵・出島和子・宇山大樹. 1980. 冬季における沖縄の野鳥. 野鳥. 45(5): 40-43.

久貝勝盛・山本晃. 1981. 宮古群島の鳥類目録. 沖縄生物教育研究会誌 14: 15-29.

久貝勝盛. 1998. 多良間島・水納島の鳥類. 平良市総合博物館紀要 5: 39-68.

宮崎学. 1981. 鷲と鷹. 平凡社, 東京.

佐野清貴. 2003a. 石垣島におけるカンムリワシの繁殖生態. Strix 21: 141-150.

佐野清貴. 2003b. シーズ「この鳥を守る」の現在 カンムリワシ あやばに~古謡に唄われ尊ばれるワシ. 私たちの自然 44(4): 16-19.

佐野清貴. 2010. カンムリワシ幼鳥の顔写真を募集!. バードリサーチニュース 7(12): 5.

髙原建二. 2004. 小浜島における鳥類の記録について. 小浜島総合調査報告書. pp.35-59. 沖縄県立博物館, 那覇市.

吉見光治. 1991. カンムリワシin西表島. 日本の生物 5(3): 4-15.

執筆者

佐野清貴 カンムリワシ・リサーチ代表

とりあえず特別天然記念物などで名前だけは有名なカンムリワシ. 地元では海上保安本部のヘリコプターの名前になったり, 学力向上のプロジェクト名に使われたり, 開港に近い新石垣空港のマスコットにされちゃったりと, 実際の生態や危機的な現状とは違ったイメージで使われたりします. カンムリワシの調査を始めて15年, グループが発足して6年になります. 今後もカンムリワシの現実の姿を伝えてくつもりです.



カンムリワシのリハビリ中.